

道徳の時間学習指導案

三次市立甲奴小学校
指導者 T1 中川 英子
T2 高下 美恵

1 日時 平成27年9月8日(火) 5校時

2 学年 第5学年 21名

3 主題名 働くことの意義 4ー(4)

4 ねらい 父親の仕事に対する姿勢や考え方を知ることを通して、働くことは「自分良し」「相手良し」「社会良し」という「三方良し」の意義があることに気づき、働くことによって「人とともに生き」「人間的に成長」していこうとする心情を育てる。

5 資料名 「電車の運転士」(「父の仕事」)

出典:「夢や志をはぐくむ教育」掲載(大阪府教育委員会)「生きる力 5年」(日本文教出版)一部改作

6 主題設定の理由

- 本主題は、内容項目の4「主として集団や社会とのかかわりに関すること」の(4)「働くことの意義を理解し、社会に奉仕する喜びを知って公共のために役に立つことをする。」に当たる。人のため、みんなのために働くことは、喜びを感じるやりがいのあることである。人は誰でも、社会や人のために役立ちたいという欲求をもっている。人のために役立っているという実感をもつことができれば、自己の存在感や集団への帰属感を高めていくことになる。

この段階においては、特に勤労を尊ぶ心を育てながら、働くことの意義を理解して社会の役に立つことができるよう、つまり、勤労が自分のためだけではなく、社会生活を支えるものであることを理解し、社会への奉仕活動など公共のために役に立つ活動に目を向け、積極的に取り組むことができるようにすることが重要である。

- 本学級の児童は、

〈略〉

- 本資料は、運転士の父が電車の運転をしていた時、思わず声をかけてしまうが、にこりともしない父に主人公のぼくは腹を立ててしまう。しかし、父の仕事に対する思いや仕事とはどういうものかという話を聞いて、主人公のぼくは、働くことの意義に気付くという内容である。本資料は、登場人物の思いや考えを共感的に捉えることを通して、働くことには、自らの目的を実現するために働くという面もあるが、社会的分業によって社会を支えているという面もあることを学ぶことのできる資料である。

指導に当たって、導入では、子供たちが将来になりたい職業とその理由を発表させる。展開では、電車の中での父の様子を見たり父が話す言葉を聞いたりしているぼくの気持ちに共感させながら、働くことの意義に気付かせる。終末は、保護者の方や地域の方の働く姿や仕事に対する思い、自分の仕事社会にどのように役に立っているかと考えているかを知らせる。そして、「私たちの道徳」を活用し、自分も良い、相手も良い、そして社会も良い「三方良し」という考えから「働く」ことの意義をしっかりと捉えさせる。憧れの夢として考えていた「仕事」に対する思いから、どの職業にも「三方良し」の意義があることに気付かせることで、自分自身の将来の生き方につなげたい。

また、人や社会のために働くことの意義を理解し、総合的な学習の時間や学級活動の時間に、今

の自分にできることで人の役に立ったり相手を喜ばせたりすることはないか考え、ボランティア活動の取組に発展させたい。

【ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業の工夫】

- ・発問の精選をする。
- ・視覚的情報を効果的に活用する。
- ・考えや自己の振り返りを交流し合う場を設ける。
- ・ワークシートを活用し、1時間の活動の中身と流れが分かるようにする。

7 準備物

資料 提示物（場面絵 短冊） ワークシート 電子黒板

8 学習指導過程

段階	学習活動	主な発問と 予想される児童の反応	指導形態		・指導上の留意点 ○ユニバーサルデザイン視点による支援 ★児童への評価の観点
			T 1	T 2	
導入	1 将来なりたい職業を発表する。	○将来何になりたいですか。 ・警察官、野球選手、サッカー選手、保育士、パン屋、医者 等 [理由] ・好きだから。かっこいいから。憧れているから。等	発問 児童観察	板書	・なりたい理由を発表させ、職業観を発表させる。
展開	2 資料「電車の運転士」の範読を聞いて話し合う。	○「お父さんには今の仕事が楽しいんだ。…とても大事な仕事だと思っているよ。」とにっこりする父を見て、ぼくはどんなことを考えているのでしょうか。 ・どこが楽しいのだろう。 ・つまらない仕事だよ。 ・なぜ、にっこりしているの。 ・家に帰って来られない日もあるじゃないか。 ・日曜日も祝日も出かけて家にいないじゃないか。 ・一緒に遊びたくても遊べないのに楽しいの？ ・大事な仕事ってどういうこと？	範読 発問 児童観察	資料提示 板書	・父の仕事を理解できず、自分達を大切に思ってくれないという不満を持つぼくに共感させる。
		○「お父さん！」と大きな声で二度呼んでもにっこりもしない父を見て、ぼくはどんな気持ちでしょう。 ・どうして返事をしてくれないの。 ・おかしいな。そんなはずはない。 ・気付いたはずなのに無視するなよ ・ひどいなあ。 ◎お父さんの言葉を聞いてはっとしたぼくは、どんなことに気付いたのでしょうか。 ・自分の甘さ。 ・お客さんは、お父さんの電車に乗ると移動ができること。 ・乗客は、お父さんを信頼しているから、安心して電車に乗ってられること。 ・お父さんがいい加減な仕事をして	発問 児童観察	板書 児童観察	・せっかく電車の中で会えたのに返事をしてくれない父に苛立つぼくに共感させる。 ・自分のとった行動の甘さに気付き、父の仕事について考えたぼくの気持ちを考えさせる。 ○「働く」ことの意義について考えたぼくに共感させ、ワークシートに書かせる。 ・「仕事というのは、給料さえもらえばいいというもの

		いたら、大事故につながり乗客の家族まで悲しい思いにさせること。 ・お父さんの仕事は、人の命を預かる大切な仕事であること。 ・働くことは、生活をするために給料をもらうということ。 ・自分の仕事に、誇りをもって働くことが大事だということ。 ・働くことは、自分のためだけでなく、相手のためにもなるということ。 ・仕事をするとは、社会の役に立っているということ。 ・自分のためにも、相手のためにも、社会のためにもなっているということ。			はないんだよ……。」という父の言葉からグループトークで思考を深めさせる。 ★「働く」ことは自分のためだけでなく、相手にとっても大切なことであり、社会生活を支えるものであることに気付くことができる。(ワークシート・発言等) ○「三方良し」の意味の違いが理解できるような板書の工夫をする。 ○「私たちの道徳」p.152を提示し、働く意義を「三方良し」の考えでまとめる。
終末	3 保護者や地域の方の働く姿を紹介する。	○お家の方や地域の方で働いておられる姿を紹介します。 ・やりがいをもっている。 ・相手が喜ぶと嬉しそう。 ・働くことが社会のためになっている。	発問 児童観察	板書 児童観察	○保護者や地域の方の働く姿や思いを知り、「三方良し」の意味を考えながら見る。 ・自分の将来の夢について「三方良し」の視点でもう一度考え、本時を振り返る。

9 板書計画

